

5 実践プログラムの活用事例

幼稚園での活用事例

- 対象者：年長組園児（5歳）
- 対象人数：54名
- 実践時間：昼食前の1時間程度
- 実践プログラム：食と文化①食文化に興味や関心をもつ
『日本と外国のちがいはどこだろう？』



《実践状況》

普段の幼稚園における食育活動は、農業体験による体験型の活動が中心であることから、今回の実践では、プログラム例を活用した指導に体験型の学習を伴う箸の持ち方指導を併せて実施した。

実践時には、園で普段実際に使用している漆器の給食食器を活用した説明やわらべ歌を取り入れた活動を取り入れることにより、園児の反応がよく理解につなげることができたようだった。

実践プロセスの記録

ステップ1：企画

- 対象者：幼稚園年長園児（5歳）
- 参加人数：全年長園児54名
- 実践の場：幼稚園内において、活動の場を設ける
- 取組の見通し
 - ・園児の実践につながるような内容とする
 - ・実践指導者は、外部講師（管理栄養士）とする
 - ・幼稚園の教頭、担任の教諭、外部の管理栄養士（指導補助者）が関わる

ステップ2：計画・立案

- テーマの決定：食文化について学習し、箸の持ち方指導も加える
- 指導回数：1回の指導とし、箸の持ち方については、園での昼食時等での実践につなげる
- 見通しの確認：事前に普段の園での指導内容等について聞き取り、内容や指導時間について園の関係者と協議し、決定した
- 資料や教材：日常的に園で使用している給食食器や園児が家庭から持参する箸の活用、園で普段行っているわらべ歌等を取り入れることとした

ステップ3：実践

- 関係者の関わり：導入時やわらべ歌、グループに分かれての体験学習において、教頭、担任教諭にも加わってもらい、実施した
- 継続した取組：昼食前の時間帯に設定し、学習後にすぐに実践できる流れとした
- 家庭との連携：指導に用いた媒体を家庭にも配布できるように、資料として園に提供した

ステップ4：まとめ

- 関係者で気づき等について共有を図り、今後の取組につなげていくこととした